
ツンデレスキーは悪夢を見る

.png

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ツンデレスキーは悪夢を見る

【Nコード】

N5161J

【作者名】

.png

【あらすじ】

ツンデレは本当にツンデレなのかそれともあの言葉は本心か。そんな短編小説です。作者はツンデレよりクーデレのほうが好きです

w

「べ、別にアンタの事なんて好きじゃないんだからねっ！勘違いしないでよっ、ふんっ！」

これは彼女——恋愛感情云々のものではなくただの三人称だ——が先日言った言葉だ。

僕の名前は宮間哉、そして先日そんなことを言ったのは学年一の美少女と称されるほどの美少女、佐伯静香さんだ。

この言葉を聞いた時、僕はフラグが立ったと直感した。つまり彼女は俗に言う“ツンデレ”だ。彼女がああいったということとは彼女は僕のが好き、そういうことだ。

次の日から僕のほうからアクションを起すことにした。

「おはよう、佐伯さん」

「何よ気持ち悪い、話しかけないで頂戴！」

ああ、叱咤されてしまった。しかしこれは彼女の気持ちの裏返しなんだ。

周りの人は何か言いたげな表情をしているが気にすべきことではない気がする。この際は無視する。

朝、あんなこともあったが帰りの挨拶もすべきだと僕は判断した。

「さようなら、佐伯さん」

「永遠に私の前からさよならしなさい！」

ああ、なんという愛の御言葉だろうか。しかし僕には分かるのだ。彼女が『ずっと私の周りにいなさい！』と言いたいのだと。

その夜、僕はどうすれば彼女を素直にできるのか作戦を練ることにした、ツンデレカルタを聞きながら。

僕は極度のツンデレスキーだ。最近はクーデレやロリといった属性も人気になっているようだが僕はツンデレが至高だと考えており“

全日本ツンデレを愛でる会”通称AJLT（All Japan Love Tunder）の会員ナンバー05だ。

早速AJLTの仲間に相談をすることとした。

「MIYA（僕のHNだ。）：ツンデレなクラスメイトに思わせぶりな発言をされたのだからどう思うだろうか？」

「HIRA：ちょwマジかwwwという発言だ」

「MIYA：「べ、別にアンタの事なんて好きじゃないんだからね！」みたいな発言だった」

「HIRA：おお、すげえwww」

「SAKA：今来てみたら凄いことになってるなwww」

「AYA：上に賛同w」

「TAKA：で、MIYAは一体どうしてみたんだ？」

「MIYA：一応挨拶してみた」

「TAKA：で、反応は？」

「MIYA：朝が「何よ気持ち悪い、話しかけないで頂戴！」で夕が「永遠に私の前からさよならしなさい！」だった」

「AYA：ちょw脈アリだwww」

「SAKA：おお、すげえwww」

「HIRA：オレの嫁のしは二人きりになったら尻尾を出したぞ」

「MIYA：よし、じゃあやってみるわ」

「AYA：頑張れよ」

相談は終了した。

AJLTの人たちは基本親切で『リア充氏ねwww』などと言わな

いから気軽に相談できるんだ。それじゃあ明日のためにもう寝るとするか。

そして次の日。

朝挨拶をしたところ昨日のような好返答をもらえた。

そして屋上へと呼び出した。

僕の方から言うのはややセオリーとは違う気がしなくてもないがどうせ結果は同じなのだから早いに越したことは無いだろう。

「何よ、こんなところに呼び出して。早く言いたいことがあるのなら言って頂戴！」

「わかった。佐伯さん、付き合ってくれ！」
よし、勝利した。

相手は何やら顔を紅くして俯いていた。表情は読み取れないが喜びに満ち溢れた・・・いや、少しむすっとした表情をしているに違いない。

彼女はツンデレだ。そんな素直に喜ばずに『べ、別にどうしてもって言うなら付き合ってもいいわよ・・・』といってくれるに違いない。

「・・・アンタ何言ってるの？」

彼女は顔を“怒りに”紅くしていた。

・・・。

・・・。

・・・なんだって？

「私言ってたでしょう。アンタの事なんて好きじゃない、って。よって結果は無理よ。それじゃ」

そう言って彼女は立ち去ってしまった・・・。

・・・。

・・・。

．．．．．つまりあれは本心？

僕は振られた？彼女はツンデレではなかった？僕のことは本当に嫌いだった？

．．．．．。

．．．．．。

．．．．．うわあああああああああ！！！！！！！！！

その日から僕はツンデレを嫌いになった。

（後書き）

こんな短編はいかがでしょう？

女の子の「べ、別にアンタの事なんて好きじゃないんだからねっ！勘違いしないでよっ、ふんっ！」と言う台詞。アレは結構奥深いですネ、というお話です。

途中で出てきたA J L Tの仲間たちの名前は意味があります。勿論元ネタも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5161j/>

ツンデレスキーは悪夢を見る

2010年12月25日22時20分発行